

日本人とフランス人日本語学習者の会話にみられる 「修正」のストラテジー

猪 崎 保 子*

キーワード: コミュニケーションのルール違反, コミュニケーション・ストラテジー, 修正, 訂正, 修正要求

要 旨

日本人と外国人の日本語によるコミュニケーションは日本人どうしのコミュニケーションと異なり、双方がトラブルを解決したり、誤解を避けたりするための調整, すなわち「修正」を行っていると考えられる。本稿ではこの「修正」のメカニズムについて、フランス人中級日本語学習者と日本人が行ったインタビューとそのフィードバックを資料として、観察、調査を実施した。分析は問題点を「言語問題」「(言語以外の)コミュニケーション問題」に分類し、さらに「言語問題」を発音、単語、文、発話の4レベルに分けて行った。参加者がコミュニケーションのルール違反をどのように認定し、それをどのように「修正」したか、またその過程でどのように影響し合うのか、「修正」になんらかの特徴がみられるのか、などを調査した。

インタビューでの「修正」のやりとりは、相互の理解やコミュニケーションの目標を達成するための共同・協力作業であるといえる。ルール違反があっても相手の誤りを「訂正」するケースはきわめて少なく、互いに聞き返しの質問をしたり、補いあったりしながら、話が進められていくことがわかった。また「言語問題」のなかで発音、単語、文、発話はそれぞれ密接に絡み合い、さらにコミュニケーション問題とも深く関連している。そしてレベルが進むほど、問題点は表面に現れにくく、「修正」の対象にならないことがわかった。

1. はじめに

一般的に外国語あるいは第二言語の学習者はかなりの期間にわたって不十分な目標言語(ここでは日本語)で日本人とコミュニケーションを行わざるを得ないといえる。このような場合、外国人は自分の日本語を訂正したり、言い換えたりしてなんらかの形でコミュニケーションの目標を達しようとするだろう。また日本人も少なからず外国人にたいする自分の日本語に調整を加えていると思われる。日本人と外国人のコミュニケーションは日本人どうしのそれとどのように異

* IZAKI Yasuko: フランス国立東洋言語文化研究所朝鮮・日本語科講師。

なるのか。また外国人が日本語によるコミュニケーションでルール違反をおかしているとしたら、そこから生じる誤解やトラブルは言語問題だけではなく、待遇表現や依頼にたいする応答の仕方などコミュニケーション上の問題にも及び、さらに社会・文化的な相違からくる相互の誤解などが複雑に絡み合っていて、一口にトラブルといっても、問題はそれほど単純ではないだろう。外国人と日本人のコミュニケーションにおいて双方がどのようなルール違反をし、その結果どのようなトラブルが生じ、双方がいかにかこれを認識し、解決するかを本論では観察・調査してみたい。

外国語または第二言語教育における「修正」(repair) 研究¹では外国人の「誤用」(error) が「訂正」(correction) または「修正」されるにいたる相互のやりとりを外国語・第二言語習得の過程のなかで捕らえ、「修正」を習得の重要な一要素とみなしている。外国人と日本人の日本語によるコミュニケーションが日本人どうしのコミュニケーションと異なり、双方が調整する過程で影響しあっているとすれば、その実態を観察し、「修正」の方策を調査することは日本語学習・教育の面にも役立つ示唆を与えてくれるはずだ。

本論では尾崎(1981)の定義にしたがって、コミュニケーション・ストラテジーを「円滑化ストラテジー」と「訂正ストラテジー」の2種類に分け、「訂正」ということばを使わずに「修正」ということばを採用することにする。「修正」はコミュニケーションのルール違反によって生じたトラブルを除くための処置・方策とみなす。トラブルの原因の一つである言語上の誤りを正すことを目的とする「訂正」は「修正」の一部であり、「誤用」を正すという意味で使用する。

「修正」研究の枠組みは van LIER (1988) に詳しいが、これは授業研究中心であるので、これに修正を加え、尾崎(1981, 1992)、ネウストブニー(1995)を参考にして新たな枠組みを作り直すことにする。「修正」が会話のやりとりのどの段階でなされるかについて²、発話計画段階、発話実施段階、発話理解・解釈段階の三つに分けられるが、これをそれぞれ「事前修正」「事中修正」「事後修正」と名付ける³。また「修正」がだれによって行われるかによって、「自己修正」と「他者修正」の二つに分類する。さらにルール違反やトラブルの原因がどこにあるかにより、「言語問題」「(言語以外の)コミュニケーション問題」「社会・文化問題」の三つに区別して観察する。しかし「社会・文化問題」は今回は扱えなかった。

2. 調 査

フランスの大学の3年次生の授業の一環として実施したインタビューとそのフィードバックを

¹ van LIER, L. (1988) 及び Chaudron, C. (1988).

² van LIER, L. (1988: 180-212).

³ 「事前修正」の調査はフィードバックでかなり混乱があったため、本論文では言及しない。

資料として、日本人(以下Jと略す)とフランス人日本語学習者(以下Fと略す)がコミュニケーションのルール違反があった場合にこれを認定したか、しなかったか、また認定があった場合、どのように「修正」が行われたか、あるいは行われなかったかを観察、調査した。

この対象となった者はフランス国立東洋言語文化研究所の3年次の学生19名とゲストの日本人9名である。学生の日本語学習時間は調査時点でおおよそ300-900時間以上であった。19名のうち両親のどちらかが日本人である者2名、配偶者が日本人である者1名、2ヵ月以上の日本滞在経験者が7名いた。日本人ゲストのうち7名はフランス滞在期間が長くフランス語を十分に使える。残り2名も十分とはいえないがフランス語を話すことができる。インタビューは授業に日本人ゲストを招待する形式で行われ、1回のインタビューは約45分、合計10回実施した。ゲスト1名に学生は5-6名の割合であった。

授業内であるため普通の会話の設定条件と異なっている点があったかもしれない。またインタビューという対話の性格からくる制約も考えられるため、一般的な会話の設定条件から外れる部分が多少ともあると考えられる⁴。

2-1. 調査の方法

調査は以下のように進められた。1) テーマを決め、これについて主に読解資料をもとにF全員で話し合い、質問を用意する。2) Fはゲストにインタビューする。教師はVTRまたはオーディオテープに記録する⁵。3) インタビューのフィードバックを行う。「ルール違反」や「トラブル」があったことを認定していたか、「修正」をしたかなどを教師の質問を中心に話し合う。教師は記録をとる。4) インタビューとフィードバックを文字化する。5) 文字化したテキスト全体を言語問題、コミュニケーション問題、社会・文化問題に分け、言語問題を〈発音〉〈単語〉〈文〉〈発話〉⁶の4レベルに分類する。6) これを図1に示された項目にしたがって分類する。

図1に示したように会話途中でなんらかのトラブルやルール違反が起こった場合、発話者本人がそれを認めて[自己修正]する場合と、自分で修正ができず、相手に助けを求める[援助要求]の二つの場合がある。[自己修正]の方法としては図1にあげた6種類がみられた。また[援助要求]とは発話者本人が探している単語や表現が見つからない場合に「* * は日本語でどう言いますか」などの形で相手に援助を求めることである。しかし発話者本人がルール違反に気づかなかったり、気づいても修正できない場合には、相手がトラブルを解決しようとして聞き返しの発話を

⁴ インタビューでは質問→回答という形で会話が進められる。これ以外の依頼表現などの「隣接応答ベア」(「依頼する」→「受け入れる」または「断る」)は現れにくいようだ。

⁵ 10回のインタビューのうちVTRを使用できたのは2回のみだった。このため、ジェスチャーや表情の変化などは観察できない場合が多かった。

⁶ 〈発話〉とは、ひとりの話者によるターンの保持の間の文の連続を意味する。

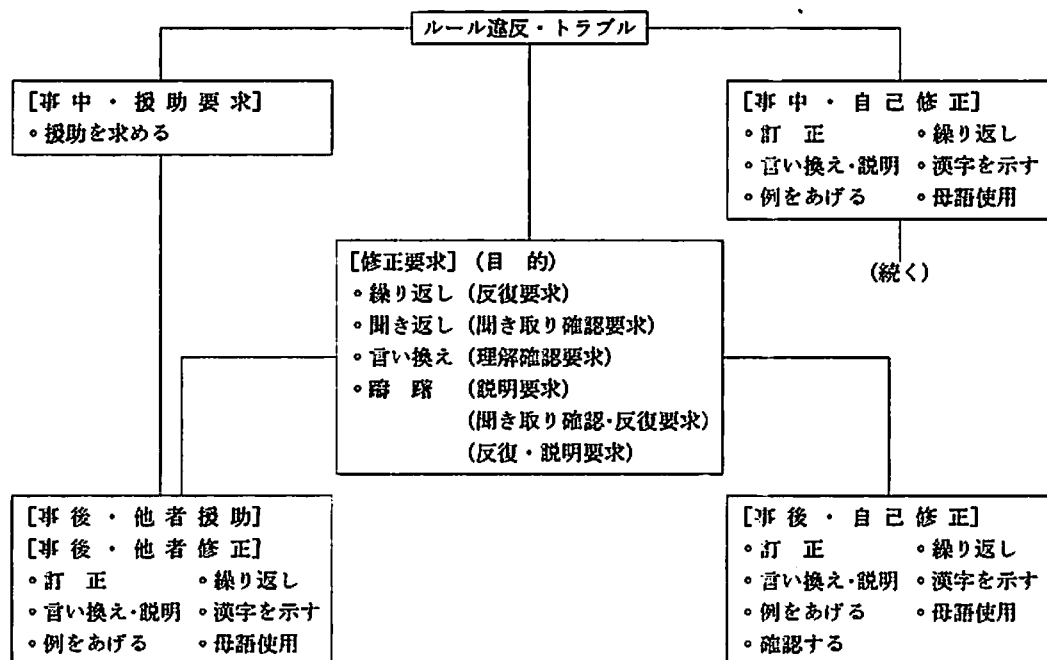


図1 言語問題の処理

するが、これを「修正要求」と名付けた⁷。「修正要求」の種類は4種類ある(会話例も参照)。相手の言った単語や文(の一部)をそのまま繰り返すものが「繰り返し」である。「聞き返し」とは「えっ?」「はい?」「なんですか」などの表現でトラブルがあったことを相手に伝えたり、聴解・理解を確認したりすることである。「言い換え・説明」とは理解できなかった部分を他の言葉や表現に言い換えて説明し、確認を求めることである。躊躇は「うーん」「えー」などの言い方で発話を戸惑う様子を指す。「修正要求」の目的はいろいろあるが、およそ「反復要求」「聞き取り確認要求」「説明要求」「理解確認要求」「反復・説明要求」「聞き取り確認・反復要求」の六つに分けられる⁸。相手の「修正要求」を受けて、事後の「自己修正」が行われるか、沈黙したり放棄したりする場合が続く。これらをさらにフランス人Fと日本人Jに分類した。したがって以下の記述では[F 事中・自己修正][J 事中・自己修正][F 修正要求][J 修正要求][J 事後・他者修正][J 援助]はここに含める[F 事後・他者修正][F 事後・自己修正][J 事後・自己修正]の項目に分類されることになるはずだが、FによるJにたいする事後・他者修正([F 事後・他者修正])はみられなかった。

⁷ 「修正要求」は尾崎(1981, 1992)の「聞き返し」ストラテジーに相当する。本論では「修正要求」の一つである「聞き返し」との混同を避けたかったので「修正要求」とした。

⁸ この6種類以外の組み合わせも考えられるが、実際には現れなかった。しかしフィードバック段階でFに「修正要求」の目的をたずねたところ、本人にも要求目的がよくわからない場合がかなりあって、この分類には問題があることがわかった。

3. 結 果

表1にしたがって言語問題全体の状況を観察すると、[F 事中・自己修正]は、〈発音〉〈発話〉レベルで少なく、〈単語〉〈文〉レベルで多い。しかし〈文〉レベルの修正は成功例が半数以下である。[J 事中・自己修正]は〈単語〉レベルに集中している。[F 修正要求]は〈単語〉レベルが圧倒的に多い。[J 修正要求]は[F 修正要求]に比べて数がずっと多く、〈発音〉〈単語〉〈文〉〈発話〉の順に増えていく。しかも1回の[聞き返し]では問題解決に至らない例がかなり多い。[J 事後・援助]も〈単語〉〈文〉〈発話〉の順に増えている。[J 事後・他者修正]はすべてのレベルで1桁台と数が少ない。

会話例1にみられるように、〈発音〉〈単語〉〈文〉〈発話〉レベルのトラブルは相互に関連している。〈単語〉レベルの[F 援助要求](5F)が〈発音〉問題に移り(7F)、再び〈単語〉レベルに戻り(9F)、続いて〈文〉レベルのJFのやりとりの末、一応の了解に至ったようにみられたが(10J~22F)、Fの新たな発話によって再び紛糾して解決はさらに先送りされた。また表には現れない観察を記すと、[J 修正要求]が起こるのは、JがFの発話の聴解、理解が十分でなかった場合に多く行われ、コンテキストにより推測して理解できる場合には、Fのルール違反があっても、Jは指摘せずそのまま会話を続けている。また[F 修正要求]では、FがJの発話を十分に理解できなかったり、Jの回答がFの期待していたものと多少とも違っていたりしていても、Fは[修正要求]をすることが少ない。JもFが理解できたかどうかについて、確認を求めたり、コメントしたりすることは少ない。

3-1. 言語問題〈発音〉

[J 事中・自己修正]はゼロで、[F 事中・自己修正]は3例だけだった。[F 修正要求]は表2-1にみられるように「聞き取り確認要求」「反復要求」による単語の一部または全体の「繰り返し」が10例ある。Fの聞き返しにたいしてJは「繰り返し」「繰り返し+説明」で答える。[J 修正要求](表2-2)は19例と数が増える。種類は「繰り返し」「聞き返し」がほとんどで、その目的は「聞き取り確認要求」がもっとも多い。[F 事後・自己修正]でFの応答をみると、「繰り返し」による反復が11例あるが、ほとんどの場合が失敗している。例2に示すように、Fの発音に問題があれば、Jは[聞き返し]をするが(4J)、Fがただ同じ発音を反復するだけでは事態は解決されない。〈発音〉の問題は〈単語〉レベルに移り(9F2)、言葉の意味が理解できてから解決されることが多い。〈発音〉のトラブルについて大半のFは問題意識がなく、自分の発音のどこに問題があったのか分かっていなかった。

表 1 言語問題

	F 自己修正	F 修正要求	J 自己修正	J 修正要求	J 援助	J 他者修正
発音	3(0)	10(0)	0(0)	19(10)	0(0)	7(0)
単語	30(12)	72(27)	22(0)	45(17)	25(0)	8(0)
文	43(28)	9(0)	0(0)	68(25)	22(6)	7(2)
発話	4(4)	12(1)	1(0)	91(45)	17(7)	0(0)

()内は失敗の数。

例 1

1 F	しゅーふのかつどうは、おもしろい、と、おもいま	
2	す。おなじとき、あー、きんろう、あー、の、よう	
3	す、が、もっていて、いー、えー、おなじとき、よ	
4	か、の、ようそ、も、もっているから、あー、しゅふ	
5	のはー、えー、qu'est-ce que la frontiere?	F 援助要求(フランス語使用)
6 F2	こきょー	F ★(発音)トラブル
7 F	かなきょー?	F 不完全繰り返し(聞き取り確認要求)
8 F2	C'est la limite. がたり、がたり。	F ★(単語)トラブル
9 J	がたり? こきょー?	J 繰り返し(説明要求)
10	こっきょー、こっきょうは、国の境、国の境。あ	言い換え・説明(理解確認要求)
11	あ、境。余暇と労働の境は、なんだと思いますか。	
12 F	えー。しゅーふの...	F 言い淀み
13 J	主婦にとっての。	J 補う
14 F	しゅーふはその、さかいにー、いる。あー...	F 言い淀み
15 J	余暇と労働の境に、ああ、はい。	J 補う
16 F	ひとびとがー、あるー、ひとびとがー、あーん、き	F ★(発話)トラブル
17	んろうの、かつどう、だと、して、ほかの、ひとびと	
18	はー、あー、よーか、と、おもう。あなたの、かんが	
19	え、えー、かんがえでは、なんですか。	
20 J	なんとなく、わかりました。えーっと。人によって	J 言い換え・説明(理解確認要求)
21	は、主婦は遊んでいるように見えるけれども、主婦	
22	は、ほんとは、働いているって、思ってるってことで	
23	すね	
24 F	はい。	F 確認
25 J	それで、私はどう、思うか。	J 聞き返し(理解確認要求)
26 F	あーうー、うーん、あなたのかんがえ、ではー、	F ★(発話)トラブル
27	し、しごとの一、えー、しごとのたんごを、つかっ	★(文)トラブル
28	た、のは、しごと、しゅふの、かつどうの、あなすと	
29	ーき、あー、しごとの、たんごを、つかいました。	
30	ね。しごと。	
31 J	仕事	J 繰り返し(説明要求)
32 F	Elle a parle d'un mot. c'est bien たんご。	F 母語使用

表 2-1 発音

F 修正要求	目 的	J 事後・自己修正(失敗)
繰 り 返 し 10	聞き取り確認 7 反 復 ・ 説 明 3	繰 り 返 し 5(0) 繰り返し+説明 4(0) 訂 正 1(0)

表 2-2 発音

J 修正要求	目 的	F 事後・自己修正(失敗)
繰 り 返 し 7	聞き取り確認 10	繰 り 返 し 13(9)
聞 き 返 し 7	理 解 確 認 4	フ ラ ン ス 語 3(0)
言 い 換 え 4	説 明 2	確 認 2(0)
躊 躇 1	反 復 1	言 い 換 え 1(0)
	聞き取り確認説明 1	訂 正 1(0)
	? 1	な し 1(1)

例 2

1 F はい、日本人はね、がこうを、そつぎょ、うー、…	★〈発音〉トラブル
2 したあと、えー、どの、ように、えー、 <u>しゅぎょ</u> 、し	
3 ますか。	
4 J しゅぎょ? しゅぎょー?	J 繰り返し+聞き返し(聞き取り確認+理解確認要求)
5 F しゅぎょーしますか。	F 繰り返し
6 J しゅぎょーは、どんなしゅぎょうですか。	J 聞き返し(説明要求)〈単語〉
7 F あー、しごとを、さがすとき。	F 説明〈単語〉
8 J ああ、しゅうぎょう? しゅーしよく、しゅうしょ	J 言い換え(理解確認要求)〈単語〉
9 くかつどう?	
10 F しゅーしよく、しゅーしよく。	F 繰り返し

3-2. 言語問題〈単語〉

[F 事中・自己修正](表 3-1)の半数はフランス語、英語などを使用するケースである。「言い換え」も 11 例と多いが大部分は失敗している。F は自分が言った日本語語彙に自信がない場合、あるいは J のちょっとした動作(首や頭を僅かに傾ける、表情を少し変えるなど)に気づいてトラブルを察知し、修正する場合があった。

[J 事中・自己修正](表 3-2)もフランス語の使用が多く、「言い換え・説明」は 5 例しかないが、J は F が知らないのではないかとみなした多少難しい語彙は意味の確認を求めたり、やさしく言い換えたりしている(例 3)。

表 3-1 単 語

F 事中・自己修正(失敗)		J 事中・自己修正(失敗)	
言 い 換 え	11(9)	仏 語	10(0)
日 語 - 仏 語	8(2)	言 い 換 え	5(0)
仏 語	4(0)	日 語 - 仏 語	4(0)
訂 正	4(1)	日 語 - 英 語	2(0)
仏 語 - 日 語	2(0)	仏 語 - 日 語	1(0)
英 語	1(0)		

表 3-2 単 語

F 修 正 要 求	目 的	J 事後・自己修正(失敗)
繰 り 返 し 32	説 明 18	繰 り 返 し 16(7)
聞 き 返 し 26	理 解 確 認 18	言 い 換 え・説明 18(7)
言 い 換 え 9	反 復 15	フ ラ ン ス 語 8(0)
躊 躇 5	聞 き 取 り 確 認 10	確 認 7(0)
	聞 き 取 り + 説 明 8	繰 り 返 し + 説明 5(1)
	反 復 ・ 説 明 1	説 明 + 漢 字 7(5)
	? 2	漢 字 7(3)
		例 を あ げ る 2(1)
		無 視 2(2)

例 3

1	J 私は高齢出産、あのう、高齢出産って、若いうちに	J 言い換え・説明
2	子供がうまれないで、年とってから子供を作る、高齢	
3	出産だったので、えー、ずいぶん、くたびれました。	

例 4

1	J 政府から、派遣されて、えー、最初の2年間、ユ	★〈単語〉トラブル
2	ネスコで、働いてました。	
3	F にほんせいふ、を、えー、めいれいを、うけまし	F 言い換え(理解確認要求)
4	たね。	
5	J うー、命令じゃないんです。私が、あのうー	
6	F じゃなくて、えらぶことが、できましたか。	F 言い換え(理解確認要求)
7	J (うなずく)	
8	F ああ。	F 確認

例 5

1 F	しゅうは、というのは、なんですか。	F	聞き返し(説明要求)
2 J	しゅうはというのは、派閥の「は」、という字を書	J	漢字を示す
3	くんですけど、ですから…		
4 F	セクト?	F	聞き返し(理解確認要求)
5 J	えっ? セクト、うーん。セクトでいいんですか。	J	聞き返し+繰り返し(理解確認要求)
6 F	ローマはの、は、ですか。	F	言い換え(理解確認要求)
7 J	そうです、ああ、いいですか。		
8 F	はい。	F	確認
9 J	あの、こういう字を。	J	漢字を示す
10 F	ああ、そうですね。	F	確認
11 J	あの、しゅうは。だから、例えば、あの一、キリス	J	例をあげる
12	ト教と同じように、仏教のなかにもいろんな派が、あ		
13	るんです。		
14 F	その「は」は、グループ、グループですか。	F	言い換え(理解確認要求)
15 J	グループ、うーん、グループ。		

[F 修正要求]はJの発話に未知の語彙があった場合、「繰り返し」「聞き返し」によって「反復要求」「聞き取り確認要求」「反復・説明要求」をすることがほとんどである。「言い換え」は9例と数は少ないが、すべて「理解確認要求」である(例4)。「聞き返し」は26例あり、そのうち16例は表現形式「*はなんですか」「*は?」「*というのは?」「~ですか」などによって「理解確認要求」や「説明要求」をしている。残り10例は「聞き取り確認要求」「反復要求」である。Fの[修正要求]に対する[J 事後・自己修正]は「言い換え説明」「繰り返し」が多いが、成功例はあまり多くない。続いて「漢字を示す」と「漢字を示す」+「説明」があるが、成功例は14例中9例である。Jは言葉の意味を明らかにするために漢字を示して説明することがあるが、FがJと同程度の漢字認識をもっているとは思われない。例5にみられるように、Jが漢字を示し(9J)Fも確認した(10F)にもかかわらず、Fは再度「理解確認要求」の「言い換え」をしている(14F)。またFの修正要求が「躊躇」である場合、Jはトラブルの原因を特定できず、問題解決に役立たない場合が少なくない。

[J 修正要求](表3-3)で、JはFの発話が十分に理解できない場合、単語レベルでの聞き返しをして理解しようとしたり、問題解決への手掛かりを得ようとする(例6)。しかし1回の聞き返しではなかなか成功しない。Jの修正要求を受けて、Fは「言い換え・説明」で応答する場合がもっとも多く、14例あるが成功の確率はあまり大きくない。

[J 事後・他者修正]では、JはFに言い淀みや躊躇がみられると、言葉を補ったり、確認を与えたりする。Fは語彙が不足している場合、Jにフランス語を示して援助を要求することが9例あった。

〈単語〉レベルでの問題点だが、安易にフランス語訳に頼ってしまう傾向があり、また例7に

表 3-3 単語

J 修正要求		目 的	F 事後・自己修正(失敗)
聞き返し	18	理解確認	26
繰り返し	15	説明	9
言い換え	5	反復・説明	4
繰り返し+聞き返し	2	聞き取り・説明	3
聞き返し+言い換え	2	聞き取り・確認	2
フランス語	1	言い換え	1
躊躇	1		
繰り返し+言い換え	1		
			確認 10(1)
			言い換え 14(6)
			フランス語 7(4)
			例をあげる 5(0)
			繰り返し 4(4)
			訂正 4(0)
			躊躇 1(1)

例 6

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| 1 F えー、うー、今晚のテーマは、きんろと、よーかで | |
| 2 すが、フランスでは、日本では、そのー、さべつは、 | |
| 3 ないという、でんせつがありますが、どうおもいます | ★〈単語〉トラブル |
| 4 か、例えば | |
| 5 J なんのさべつですか。 | J 聞き返し(説明要求) |
| 6 F よーかの、さ。 | F 言い換え |
| 7 J 余暇と。 | J 聞き返し(説明要求) |
| 8 F たとえば、日本では、よかのときも、どうりょうと | F 例をあげる |
| (続く・省略) | |

例 7

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| 1 F でも、どうして、国家的な問題になりましたか。 | |
| 2 J えっ? | J 聞き返し(聞き取り確認要求) |
| 3 F あー、national. | F 母語使用 |
| 4 J 国家的な、例えば、どういうことで。 | J 聞き返し(説明要求) |
| 5 F たとえば(続く・省略) | F 例をあげる |
| 6 J わかりません。 | |
| 7 F 国家敵の、national な、について、あー、だれも、 | |
| 8 だれでも、おなじ、同じく考えなければなりません。 | |

みられるように、フランス語から日本語への翻訳から誤解が生じる場合がかなりみられた。Fは「国家的」という言葉を「national」と言い換えたが(3F)、このコンテキストでの意味は「国民全体の」ということで「国家的」の意味ではない。このような日仏語の語彙的ずれからくる誤解についてFはほとんど意識がなかった。

3-3. 言語問題〈文〉

[J 事中・自己修正]はゼロ。[F 事中・自己修正]で修正が文の意味に影響を与えるケースはテンスや接続の問題である。活用形、助詞などの多くは修正を加えても加えなくても意味に無関係である。しかしFの文レベルの修正がうまく働かなくても、Jはおよその意味を推測できれば回答している場合が多い(例8)。ここで観察されるようにFの文レベルの困難は従属句をうまく使えないため複文を完成できないことである⁹。

[F 修正要求](表4-1)は9例と少ないうえ、その5例はJの言った文を不完全に反復する「繰り返し返し」である。「言い換え」の表現も単文のみだった。

例 8

- | | | | |
|------|--------------------------|----|--------------|
| 1 F | フランス人とはなすとき、ああ、私は日本人です。 | F' | ★〈文〉トラブル |
| 2 | フランス人は、な、なに、いいですか。 | | |
| 3 J | うー。 | J | 躊躇(説明要求) |
| 4 F | はじめて、あうとき、フランス人は。 | F | 言い換え・説明 |
| 5 J | フランス人の友達が? | J | 聞き返し(理解確認要求) |
| 6 F | あいさつ。うん、ちがいます。あの、あいさつする | F | 言い換え・説明 |
| 7 | とき、あ、私は日本人です。 | | |
| 8 | フランス人は、なににいいですか。あの、びっくりし | | |
| 9 | ていますか。フランスの人たち。 | | |
| 10 J | うー、ふつうですね。えーと、どこから来ましたか | | |
| 11 | とか、日本から来たんですかとか。 | | |

表 4-1 文

F 修正要求		目 的	J 事後・自己修正(失敗)	
繰り返し	5	理解確認	7	確認 4(0)
言い換え	2	聞き取り確認	1	言い換え+説明 3(0)
聞き返し	1	聞き取り確認+説明	1	なし 2(0)
繰り返し+言い換え	1			

⁹ [F 事中・自己修正]の修正のうちわけを以下に示す。

「訂正」	成・否		理解への影響	
			あり	なし
接続	2	12	7	7
活用	3	4	1	6
係副詞	3	4	3	4
テンス	2	4	3	3
助詞	2	2	0	4
母語使用	5	1	5	1

表 4-2 文

J 修正要求		目 的		F事後・自己修正(失敗)	
聞 き 返 し	32	理 解 確 認	45	確 認	21(0)
言 い 換 え	22	反 復 ・ 説 明	10	言 い換 え ・ 説 明	19(11)
繰 り 返 し	7	説 明	3	例 を あ げ る	5(1)
躊 躇	7	聞 き 取 り 確 認	1	繰 り 返 し	8(6)
				フ ラ ン ス 語	5(2)
				な し	10(6)

例 9

- | | | | |
|----|---|-----------------------------------|----------------|
| 1 | F | ぼくにとって、…あー…好きな人に出会う。好きな | |
| 2 | | 人と出会うときは、結婚するは | ★〈文〉トラブル |
| 3 | J | 結婚することは | J 訂正 |
| 4 | F | することは、問題じゃないと思います。 | |
| 5 | J | つまり、それが当たりまえ。 | J 言い換え(理解確認要求) |
| 6 | F | つまり…うーうー | F 言い淀み |
| 7 | J | もしだれか好きな人に会ったら、当然、結婚するて | J 言い換え(理解確認要求) |
| 8 | | いう感じですか。ちがいます? | |
| 9 | F | うー、しきだけです。あとで、あとで、 | F 言い淀み |
| 10 | J | あとで、結婚する? | J 補う |
| 11 | F | 結婚は、式だけです。seulement la ceremonie. | |
| 12 | J | ああ、結婚式。 | |
| 13 | F | わかりましたか。 | |
| 14 | J | わかりました。つまり、結婚する前、した後は、そ | J 言い換え(理解確認要求) |
| 15 | | んなに変わらない、ということ。 | |

例 10 (子供のころと現在を比べて話をしている)

- | | | | |
|---|---|----------------|------------|
| 1 | J | 小さいころは、読みましたか。 | |
| 2 | F | よみません。 | F ★〈文〉トラブル |
| 3 | J | 読みませんでした。で、今は… | J 訂正 |
| 4 | F | あまり、よみます。 | F ★〈文〉トラブル |
| 5 | J | あまり、よみません。 | J 訂正 |

[J 修正要求](表 4-2)は 68 例と F に比べ格段に多い。「繰り返し」は少なく、理解確認や説明要求の「聞き返し」「言い換え」が大部分を占める。これにたいする F の回答は J の質問を確認するものが大半を占めている。J の「言い換え」では、F の発話が曖昧で意味がよく理解できない場合に、言い換えて理解を確認する(例 9)。しかし 1 回のやりとり(J 修正要求→F 修正)では理解に至らないので、何回か繰り返すことが多い。[J 事後・他者修正]は〈単語〉レベルと同じく、F に言い淀みがみられたときに、J が援助する場合が多い。動詞のテンスなど意味にかかわ

例 11

-
- 1 F フランスに来てから、日本のどこか、嫌いになりま
 2 したか。
 3 J えーと、嫌いになったって、…いいえ、とくに、嫌 J 言い淀み(説明要求)
 4 いになったってこ
 5 F 考え方とか、生活とか。 F 例をあげる
 6 J ああ、はい、あのう、うん、ひとつ、とても感じて
 7 いることは(続く)
-

例 12 (J がときどき日本食を作ることにについて話している)

-
- 1 F そ、そのことについて、フランスでの、あーん、生
 2 活よしき、よーしきと、
 3 日本でのせいかつようじき、うー、を、くらべて、
 4 どこが、ちがいますか。
 5 あの一、しゅーかんが、かわりましたか。
 6 J 私自身の習慣ですか。 JI 聞き返し(理解確認要求)
 7 F うん。 F 確認
 8 J えーと、そんなに、かわらないです。
 9 F たとえば、ちよーしょく、とか。 F 例をあげる
-

る誤用を訂正しているケースが7例ある(例10)がそれ以外は修正を行わない。

〈文〉レベル全体を観察すると、Fの発話が漠然としていて、Jが躊躇したり、聞き返しをしたりする場合がかなりみられる。例11でJが躊躇したおもな原因は、まず、Fがなんの前触れもなく新トピックを導入したこと、次に例をあげるなどして、質問の範囲を明確にするための「前置き」をおこななかったことである。FはJの躊躇の後に、例をあげているが、普通はこの逆ではないだろうか。この問題は〈発話〉レベルないしは〈コミュニケーション〉レベルに関連していく。さらに例12では、〈文〉レベルとみられる問題が〈単語〉レベルの問題とも結び付いて単純ではない。ここではまず、Fの発話中、指示詞の「その」(1F)がなにを指すかよくわからない。また質問が二つある(3~4Fと5F)。つまり「日仏の生活様式の違い」と「習慣の変化があったかどうか」であるが、Jは後者をとり、理解確認のための聞き返してから(6J)回答した。しかしFはJの回答に満足せず、さらに「食事」の例を示した(9F)。フィードバックで判明したことだが、Fの質問の意図はJの食習慣がフランスに来てから変わったかどうかを知りたかった。そのため、会話の旧トピックであった「日本食」をさす「その」を使ったが、「生活様式」という言葉を使ったので、質問の目標は「食習慣」よりもずっと広がってしまったわけである。これらの例も含めて、[修正要求]があったとき、Fがトラブル原因を認定しているケースは少ない。Fに原因特定が可能なのは、Jの聞き返しの目標が小さく絞られている場合に限られている。また、Jが[修正要求]をしたときに、FはJの要求目的を確定できなかったケースがかなり

あった。しかし F の[自己修正]で「例をあげる」は数は少ないが J の理解を助ける効果的な回答であるようだ。

3-4. 言語問題〈発話〉

[F 事中・自己修正]はフランス語による言い換えが2例、日本語の言い換えが2例あったが、すべて失敗している。この理由として F は話しているうちに自分の意図を日本語で表現できなくなってしまったことをあげている。[J 事中・自己修正]は1例のみで、これもフランス語による言い換え説明である。J は話が複雑なので、日本語で説明しても、F が理解できないかもしれないと思ったと述べている。

[F 修正要求](表5-1)の例は12と少ない。理解確認要求か説明要求の「聞き返し」または「言い換え」が大半である。失敗も1例しかない。「聞き返し」や「言い換え」ができれば、F は J の発話をおよそ理解できたことを意味する。かりに理解が不十分でも、J の応答により、補える(例13)。しかし F が J の発話を十分に理解できなくても、F はたいてい聞き返しをしない。F 自身、その必要性は認めているが、他のメンバーの手前、メンツを考えてなにも言わなかったと述べている。つぎに[J 修正要求](表5-2)だが、1回のやりとりで F J 相互の理解に至らない場合が多いことがめだつ。また、F の応答は「確認」がもっとも多く、「言い換え説明」は失敗が多い。また「例をあげる」は数は多くないが、成功率はよい。〈発話〉レベルでの[J 事後・他者修正]は17例あったが、例14にみられるように、F の発話が曖昧でよく理解できない場合、J は F の発話全体を、要約して言い換える(9J~12J)例がかなりみられた。

一見したところでは、問題なく F J のやりとりが行われているようでも、誤解が生じている場合もある。例15で、F の意図は J にフランスの生活で言葉の困難がないかどうかを尋ねたかったのだが、この場面では J がフランスに来る以前のことについて話しているので、J の回答は日本でのフランス語学習についてになっている。F は全く同じ質問を、別の場所で再びしている。このようにトピックをきちんと限定しなかったり、新しいトピックを突然導入したり、または指示詞「それ」がトピックとはずれていたたりして、J の聞き返しが起こっているケースが〈発話〉レベルではかなりあった。これは言語問題でもあるが、コミュニケーション問題の領域にもまたがっている。

F の発話が漠然としていて J が躊躇したり、聞き返しをするのは、F の質問の示し方に問題がある場合が多い。「フランス人と、日本人の生活のよーか(ママ)との、ちがいは、どうですか」「(日本人は)外国人にたいしてどうですか」「巡礼するのは、日本にとって、一般的にどう思っていますか」などは、なにを比べたいのか、どんな点について知りたいのかなどがはっきりわからない。質問の前になんらかの説明があって問題点を明確にしてくれないと答えにくい。同様に「日本人とフランス人の愛とどう違いますか」「日本人にとって、愛について特別な考えがありま

表 5-1 発 話

F 修 正 要 求	目 的	J 事後・自己修正(失敗)
聞 き 返 し 6	理 解 確 認 8	言い換え・説明 6(0)
言 い 換 え 4	説 明 4	例 を あ げ る 2(0)
繰 り 返 し 1		確 認 2(0)
躊 躇 1		繰 り 返 し 1(0)
		な し 1(1)

例 13

- 1 J 夫婦の愛を、より、ひき…なんて言うんですか、夫
 2 婦の愛をよりかたくするものは、子供が存在なんです
 3 ね、日本では、だから、子供のために、離婚しないん
 4 です。
 5 F あ、子供は大切なので、離婚は、禁止。 F: 言い換え(理解確認要求)
 6 J 離婚すると、子供がかわいそうって思うんで、それ J: 言い換え・説明
 7 で、離婚しない人が多いです。

表 5-2 発 話

J 修 正 要 求	目 的	F 事後・自己修正(失敗)
聞 き 返 し 38	理 解 確 認 53	言い換え・説明 36(23)
言 い 換 え 21	説 明 30	確 認 22(3)
繰 り 返 し 19	反 復・説 明 6	例 を あ げ る 16(6)
躊 躇 13	聞き取り確認 2	繰 り 返 し 11(8)
		フ ラ ン ス 語 4(3)
		放 棄 2(2)
		躊 躇 1(1)

例 14

- 1 F フランスでは、ほかの国では、宗教は大切なこと、 ★〈発話〉トラブル
 2 だ。理由は、みつつある。でも、あー、宗教は、みつ
 3 つの、あーん、職業がある。あー、それは、ひとつ
 4 は、社会の職業、もうひとつは、か、しんりの、職
 5 業、あーん、政治、その、みつつの理由は、たいせー
 6 っな、ノン、しゅぎょう、の、ことは、たいせつなこ
 7 と、だ、と、その、みつつのことは。
 8 J 宗教の役割として、社会に、たいする、働き掛け J: 言い換え・説明(理解確認要求)
 9 と、それから、精神的な救いと、もうひとつ、政治に
 10 関わるということですね。そうですね。特にフランス
 11 では、そうですね。

例 15

-
- 1 F どのぐらいフランス語を、勉強しましたか。
 2 J えー、3年半、ぐらいですか。来る前は、うん。
 3 F だいじょぶだった？
 4 J えっ？ J 聞き返し(聞き取り確認・説明要求)
 5 F だいじゅぶだった？ F 繰り返し
 6 J ええ、でも、毎日じゃなかったから。週に、二日、
 7 二日、三日ぐらい。
-

すか」なども質問に答えるためには「前置き」説明によってある程度の情報提供をしてくれないと、Jは戸惑ってしまう。このような曖昧な質問や前情報が必要な質問がJに理解困難を与えていることについてFはほとんど意識していなかった。

3-5. コミュニケーション問題

ここでのFのルール違反はおよそ三つに分けられる¹⁰。その中でJにもっとも違和感を抱かせる問題は、Jの回答にたいしてFがなんの反応もせず、沈黙している場合である。Jは自分の回答が相手に十分理解できなかったのではないかと、または自分の説明が不適当だったのではないかと不安になる。そしてさらに説明を付加したり、話を続けたりする(例16)。人によっては、「こ

例 16

-
- 1 J (……)貰わないでも、自分の仕事に、費やしちゃう人も、確かに、いますよ。
 2 F (沈黙)
 3 J あ、難かしいかな?… …残業、お金は出ないんですけどね。
 4 F (沈黙)
 5 J でも、だんだん、少なくなってますね。
 6 F (沈黙)
-

れでいいですか」とか「これで答えになってますか」などの聞き返しによってFに理解確認を求める場合もある。それでもFは沈黙したままということがあった。Fの応答表現は確認の「はい」「うん」が多く、「ありがとう」1名1回、「わかりました」2名6回にすぎなかった。相手の発話途中での相槌(「はい」「ええ」など)もほとんどみられなかった。Jは話が長くなると、途中で少しポーズを置き、相手の反応を待つのだが、Fはこれに気づいていなかった。

2番目の問題は、先にふれたように前触れなく新トピックを導入することである。新トピック

¹⁰ コミュニケーション問題でのFのルール違反の例と件数

Jの回答に沈黙(反応なし) 49, 前ぶれなく新トピック導入 30, Jに回答せず新トピックに移動 4, Jの発話中割り込み 4.

を提示する合図となる表現はほとんどみられなかった。例外的に「例えば」や「でも」などが観察されたが、これは口きり表現として適当ではないだろう。Jの反応は躊躇が大半を占める。あるいは理解確認のためにFのことば(の一部)を反復したり、聞き返しを行ったりする(例11の3J及び例12の6J)。Jは少なからず面食らっているのだが、これについてFの何人かは、質問を十分に考える時間的余裕がなかったからだと考え、インタビュー開始以前に予め質問をJに知らせておけば答えられたはずだと述べた。

3番目の問題は、「隣接応答ペア」の表現である。Jの発話が聞き取れない、また意味がよく理解できない場合、Fは反復・説明要求の目的で「ごめんなさい」「すみません」を使う。これはフランス語の「pardon?」の転移と考えられる。日本人がよくする「えっ?」「はっ?」などは観察できなかった。また「そうですね」「そうですか」「そうですよ」の混同と思われる例が2名にみられた。自分の発話の確認を相手に求める目的で使う「そうですか?」のかわりに「そうですね(下線部かなり強い)」を使うのでJはこれを押し付けがましいと感じる。また相手の発話(新情報の提供)にたいして軽く応答する「そうですか!」のかわりに「そうですね」を使うこともある。この場合、Jは自分の伝えた情報がFにとって既知情報であったと考え、さらに詳しい説明を省いてしまったケースがみられた。さらに自分の発話の最後に「そうですよ(下線部強い)」と言うため、これも押し付けがましいと受け取られる。

最後に待遇表現は「お好きですか」などの例外を除きほとんど使用されていなかった。これについてJは外国人だから、仕方がないかもしれないと述べている。しかしJが丁寧体で話しているのに、確認の「はい」のかわりに「うん」と応答されて、JはFを子供っぽいとみなしている。しかしこれらの問題についてJは会話中でなんらかの[修正要求]をしたり、言及したりすることはなかった。

4. 考 察

今回の調査でFとJのやりとりと修正を観察したが、そこにある程度の特徴がみられる。双方ともコミュニケーションの目標を達成しようと、[修正要求][修正]を繰り返す。JはFの発話意図を理解しようとし、意味理解を中心に聞き返しをする。また意味に影響しないルール違反については、ほとんどの場合、言及したり、訂正したりしない。Fの[修正要求]は〈単語〉レベルが多く、Fは理解の手掛かりを語彙中心に行っていることがわかる。しかし[修正要求]の一つである「繰り返し」は要求目的が漠然として期待する回答を得られない場合が多い¹¹。Jの[修正]

¹¹ Fが[修正要求]で「繰り返し」を行うのは「反射的に」あるいは「だいたひ反省なしに」言うことが多いとの報告があった。Fは自分が理解できない、または知らない言葉聞いてそれを「繰り返し」のだが、これは明確な要求目的があつてのことではないというわけである。

は「言い換え・説明」によって簡単な言葉に言い換えたり、発話全体をわかりやすく要約することが多い。F の [修正] では母語であるフランス語に頼ることがかなりあった。しかし「例をあげる」ことは J の理解を助けるのに役立ったようだ。言語問題についての F と J のやりとりは双方の協力・共同作業といった印象を与える。

コミュニケーション問題は、トラブルが表面には現れないが、これは言語問題にも影響するし、それ以上にコミュニケーションを進めるうえでの人間関係、感情にかかわるので、誤解を生む可能性のある重要な問題なのだが、F がこのレベルのルール違反を意識していなかったことが調査をつうじてわかった。

言語問題のうち〈発音〉では聞き取り、産出とも F になりに問題があるのだが、それがコミュニケーションに支障を与えることに大部分の F は気づいていない。F はこれまでの教育課程で発音指導を受けたことがなかったと述べている。インタビューが進むにつれて、何人かの F は長・短母音については [事中・自己修正] をするようになったが、発音問題全体の解決には至らなかった。指導・教育が必要だろう。

〈単語〉では翻訳からくる問題が大きい。母語であるフランス語の使用は F J 双方にみられたが、F の問題はフランス語に翻訳しなければなかなか理解できないこと、つまりコンテキストからの推測ができず、また日本語による「言い換え・説明」の理解にも使用にも困難を伴うことである。さらに日本語とフランス語の語彙の意味のずれに気づいていないこともトラブル解決を難しくしているのではないと思われる。F の [修正要求] を受けて J が応答する場合、多くは「言い換え・説明」をするか「漢字を示す」。しかし F と J の漢字認識にはかなり差があるようだ。J は語彙の意味説明をするときに、漢字を示し、その意味に基づいて説明を加えるのだが、F は漢字一つ一つの意味を十分知らないためか、すぐには理解できない¹²。F の [修正要求] のほとんどは〈単語〉レベルに集中していることを考慮すると、語彙の重要性を無視できない以上、適切な教育が必要であろう。

〈文〉レベルの [F 事中・自己修正] は〈単語〉レベルに比べても約 1.5 倍ともっとも数が多いが、F の修正は全体の意味にかかわらないものが半数近くあった。F は文文法の正確さに一番注意を払っているようだ。しかし意味理解に影響するテンス・アスペクト、行為の授受表現、係副詞などは(外国人にとって習得が難しい項目であるかもしれないが)成功した修正は多くない。この点にかんして教育課程での指導が必要だと思われる。従属句の接続表現についても同様である。複文構造の運用が不十分であると、文の意味が曖昧になってしまい、J からの [修正要求] も多かった。F の質問文の曖昧さは〈発話〉レベル、コミュニケーション問題と関連している。教育も文文法に限るのではなく、談話レベルまで範囲を広げて指導することが大切であろう。

¹² 例えば「興味」を知っていても「興」から「新興」の意味を推測できない。F によれば、これらの漢字熟語は関連づけなく、別々に学習するということである。

〈発話〉レベルのルール違反について F はほとんど問題意識がなかったが、これは多くの F が日本語によるコミュニケーションの経験がなかったり、経験があっても簡単な日常会話程度であつたりしたこと、言い換えれば日本人とのコミュニケーション経験が少ないことに関連していると考えられる。コミュニケーション問題でもルール違反の認定が F になったことを考えると、教育課程で日本人とのコミュニケーションに参加できるような授業運営が、この問題にかんする意識を少しでも F にもたせることに役立つのではないだろうか¹¹。

今回 VTR をほとんど使えなかったため、身振り、表情などが僅かしか観察できなかった。身振りは修正にかなり大きな影響を与えていると思われるので、この点については改めて調査する必要がある。また「事前修正」については、VTR が十分に使えなかったこと、フィードバックがインタビューの1週間後ということもあって、調査段階でかなりの混乱が起こったため、論及しなかったが、今後は調査の方法を改善して再調査したいと思う。

参 考 文 献

- 尾崎明人(1981)「上級日本語話者の伝達能力について」、『日本語教育』45号。
 ———(1992)「「聞き返し」のストラテジーと日本語教育」、カッテンブッシュ寛子他編『日本語研究と日本語教育』。
 田中望他(1986)「外国人の日本語行動——聴き取りのコミュニケーション・ストラテジー」、『言語生活』418号。
 ネウストブニー, J. V. (1981)「外国人場面の研究と日本語教育」、『日本語教育』45号。
 ———(1995)『新しい日本語教育のために』、大修館書店。
 メイナード, S. K. (1993)『会話分析』、くろしお出版。
 Chaudron, C. 1988. *Second language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
 Faerch, C. and C. Kasper. 1983. *Strategies in interlanguage communication*. New York: Longman.
 van Lier, L. 1988. *The classroom and the language learner*. New York: Longman.

¹¹ F の所属するフランス国立東洋言語文化研究所の日本語教育「文法・翻訳」方式である。「文明講座」として東アジア、日本の社会・文化、歴史、政治、経済、法律などの講義を実施している。会話や聴解は日本に行けば、直に慣れて上達すると多くの F が考えていた。しかし F のルール違反の認定はほとんど〈単語〉〈文〉レベルまでであったことを考慮すると、また特にコミュニケーション問題のレベルで外国人がおかすルール違反に日本人がほとんど言及しない(注意を与えない)ことを考え合わせると、外国人はたとえ日本に滞在していたとしても、自分のルール違反やそれが引き起こすトラブル、誤解にいつまでも気づかずにいることになるのではないか。